

企業が取り組むSDGs 前橋市SDGsパートナー制度に登録する企業へ話を聞きました。



●サニクリーン前橋
サニクリーン前橋ではぐんまちゃんのマットや、前橋市SDGsオリジナルロゴマット(るなばあくの木馬、赤城山のシルエットのデザインのロゴマット)をレンタルし、その売り上げの一部で購入した食品をフードバンクまえばしへ寄付しています。寄付を通じて、見えにくい現代の貧困に目を向けることで、利用者とながら、貧困問題や食品ロス解決の糸口につなげています。将来的には顧客を巻き込んだ取り組みなどで、SDGsを通じて地域の人々に恩返しをしたいと考えています。



●みずほ銀行
みずほ銀行では年に1回、SDGsで取り組む重要項目を見直し、時勢に合わせた取り組みを実施。例えば、昨今は人生100年時代と呼ばれ、年金や医療保険の安定性が不安視されている中で、顧客のニーズに合わせた資産形成のサービスのラインナップを増やす、という取り組みをしています。他にも、企業向けの会員制サロンを通して、スタートアップ企業やイノベーション企業と歴史ある企業のマッチングを進めることで、産業の活性化を促すための取り組みもしています。こうした、銀行としての強みを生かした取り組みで、みずほ銀行は国内外で持続可能な世界の実現を目指しています。

前橋支店の中野さんと瓜田さん



学ぼうSDGs

固 政策推進課 ☎027-898-6512

文:ワカモノ記者・梶田結衣、
金杉美咲、勅使河原花菜、
蜂須理子、茂木春香



ワカモノ記者
Instagram



今回は、カードゲームや企業への取材をおしてSDGsを学びました。

●カードゲーム「ゲット・ザ・ポイント」で学ぶ資源のこと

今回私たちが挑戦した「ゲット・ザ・ポイント」は、6種類の資源カードを組み合わせながらアイテムを作り、アイテムのポイント数に応じて勝敗が決まるカードゲームです。4人1組で、順番にアイテムを作りながら進めます。車や家などの高価な資源を使うアイテムであるほど、獲得ポイントは大きく、本や漬け物などの自然由来の資源を使うアイテムほどポイントは小さくなり、ポイントの大量獲得を目指そうとすると、たくさんの資源カードを使う仕組みです。そして、資源カードには回復する資源と回復しない資源があります。これらの資源カードを使い切ったとき資源の枯渇に陥ります。ルールは異なる2ゲームを実施して、その違いでSDGsを理解していきます。

1ゲーム目は、4人の中で自分が最もポイントを増やすことを目標にします。獲得ポイントが大きいアイテムは、回復しない資源を大量に使う

ことになり、それぞれがひたすらアイテムを作り、資源を使うため、あつという間に資源カードがなくなつてゲームは終わってしまいました。今回は6ターンで終了しました。



2ゲーム目は4人1組のチーム対抗戦で実施。回復する資源を上手く活用し、10ターン続くことを目指します。10ターン終わつたとき、他のチームよりアイテムのポイントが高いこと、資源カードが残っていることが勝利条件です。



「目標」が変われば、「行動」は変わり、「未来」も変わる。ゲームを通じて実感したこのことこそが、私たちの目指すSDGsです。

前橋市の政策推進課では、このカードゲームを学校や地域でできるよう、出前講座も実施しています。また、企業との連携や市民との協働ができるような仕組み作りで、SDGsの実現に取り組み中。SDGsパートナー制度を設け、11月16日現在で86団体からの申請を受け付けています。

市内で実施されている取り組みの中で特に興味深かったのは、学生服などで新しい制服を買えない人のための活動がさらに拡大することを期待します。

取材から学んだSDGsのこと



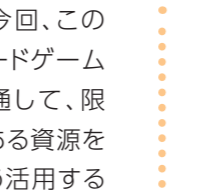
梶田
SDGsの取り組みはさまざまな問題の解決につながるだけでなく、地域の人々への恩返しにもなると学びました。まず身近なところにある課題を見つける必要があると思います。そして、困っている人に手を差し伸べることで、いろいろな人たちとのつながりができるのではないかと感じました。私たちの未来を守るために、身近な問題をみんなで考える必要があると思います。



茂木
バランスのとれた資源確保のためには、同じ社会を生きる全ての人々と目的意識や目標を共有する必要がありますと学びました。しかし資源は不測の事態で失われることもあります。目標や計画を立てて進めていても完全に計画通りに遂行することは難しいと気づき、私たちが生きる社会の持続可能性の脆さも痛感する機会となりました。



金杉
チームで資源を残しながらゴールを目指すことで「意識の共有」を強く実感しました。資源を有効活用することや後に残すことはいざ実践すると難しく感じました。しかし、同じ意識を共有し、決めた目標に向かって互いに意見を言い、意識と知識を重ね合わせて実践していく、その過程を繰り返すことで、より良い結末や未来を得られるのかもしれないと感じました。



勅使河原
今回、このカードゲームを通して、限りある資源をどう活用するのか、という問題を考えることができました。また、みずほ銀行への取材では、みずほ銀行が地域社会の抱えるさまざまな課題の解決に向き合っていることを知りました。



蜂須
物事の一長一短を想像することの必要性を感じました。化学エネルギーは便利だけれど限りがあり、自然エネルギーは再生できるけれど災害のような不測の事態が起こり得る。資源を未来につなげるためにSDGsの達成は不可欠だけれど、ただ「減らす」「やめる」だけでは産業や経済が停滞してしまうおそれがあります。選んだほうをより良い未来につなげていく、そのための指針が、SDGsだと思いました。